福島県PTA連合会会報
第92号_H25.12.10

ＰＴＡふくしま

第92号
福島県ＰＴＡ連合会
編集／調査広報委員会
印刷／泉印刷所

第四十五回東北ブロックＰＴＡ研究大会福島大会を終えて

第四十五回東北ブロックＰＴＡ研究大会福島大会　実行委員長　藤原　聡

去る九月七日から八日の二日間、第四十五回東北ブロックＰＴＡ研究大会福島大会が、千九百余名の東北各県のＰＴＡ会員の参加の下、関係各位のご協力により無事成功裏に終えることができました。

参加いただいた皆様、大会にご協力いただきました皆様に心より御礼を申し上げます。

さて、今大会を迎えるにあたり、平成二十二年十二月から実行委員会を中心に準備を進めてまいりました。この間、平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所の原発事故の影響もあり、本当にここ福島で大会が開催することができるのか不安もありました。

しかし、主管である福島市小中学校ＰＴＡ連合会、伊達地区小中学校ＰＴＡ連絡協議会、川俣町ＰＴＡ連絡協議会とが連携を密に取りながら、課題、問題点を一つ一つ解決することができました。

また、実行委員会事務局が事務局長を中心にまとまり、私たちで議論が煮詰まらないところをうまくフォローしていただき、まさに「オールふくしま」でこの大会を運営できたことが一番の成功に結びついた要因だったと思っております。

大震災後初めての被災県での開催でもあり、本当に万感の思いで大会を迎え、ふくしまの「お・も・て・な・し」を十二分に感じていただけた大会であったと思います。

大会主題である「ほんとの空の下で語り合おう！笑顔あふれる子どもの未来を」にもあるとおり、今後も笑顔あふれる子どもの未来について、真剣に語り合い、また今回築き上げた新たな絆を大事にしていければと思います。

大会運営面での課題もあったと思いますが、課題があるからこそ、次へのステップに役立てることができます。

今後、今大会で学んだことが少しでも反映され、各地区のＰＴＡ活動がより活発となることを期待しております。

県Ｐ連活動スローガン　子と親とが　共に育つ　ＰＴＡ活動を

第四十五回東北ブロックPTA研究大会福島大会

～各分科会記録より〈抜粋〉～

第一分科会【組織・運営】

研究協議の視点

「組織の活性化を図るために、広い視野から意見を交わそう。」

＝前　半＝

三名のパネリストから、視点をもとに活動状況等について発表があった。その後、会場からの質疑を受け、最後にコーディネーターからまとめのお話をいただき前半は終了した。

〈横山氏〉

■伊達、福島の子どもを元気にするために（東日本大震災及び原発事故による影響）

Q心のケアのためのライブ活動、コンサート等の今後の取り組みについて

○今現在の予定はないが、今後、検討していきたい。

〈野﨑氏〉

■秋田勝平地区のPTA活動・現在のPTAの参加状況・PTA活動参加への取り組み

Qおやじ倶楽部の継続について。

○保護者や子どもたちからの継続の声もあり予算化して取り組んでいる。

〈三浦氏〉

■東北大会で残すことができたもの（昨年度の酒田・飽海大会を開催して）

Q　次年度開催、福島へどのような思いで渡したいと思ったか。

※　盛大に福島大会を開催できるように考え、通常の姿に戻し大会を開催した。

○まとめ

・ピンチをチャンスに。大震災の出来事を通して活性化につながった。

・自分たちが楽しみ、まずは参加することから活動を次世代につないでいく。

・東北大会では、各単Pではできないことを生かして、皆さんの思いを具体化できる。

・PTA活動はあくまでも手段であり、本質的には子どもたちの健やかな成長のために行うもの。

＝後　半＝

後半は、大野裕明氏（星の村天文台台長）による講演会が行われた。『一生付き合う趣味を持たせるためには』という演題で、PTA元会長として、PTAの関わりや体験について、また、小さな頃に持った趣味が現在に至っていることについてお話された。

昔と今の学校生活の違いや、担任の先生との出会いがきっかけで星の世界に入ったこと、世界を渡り歩いたときの体験談など大変興味深い話だった。

小さな頃の夢が現実となった体験を通して、子どもたちの趣味の大切さと、ちょっとしたきっかけが、子どもの夢をはぐくむことに繋がり、それらを大事にしていくことを考えさせられた講演会であった。

第二分科会【研修活動】

研究協議の視点

「意欲がわく研修内容の創造と発信について考えよう。」

＝前　半＝

三名のパネリストから、視点にもとづき現状や課題、そして提案等についての発表があった。その後、会場からの質疑を受け、最後にコーディネーターからまとめのお話をいただき前半は終了した。

〈菊田氏〉

■我が地域における研修会の創造

○現状と課題について

○提案（地域参加型のPTA活動等）

〈前川原氏〉

■研修活動の創造と主体的参加

○現状（必要感のある研修）

○「活動できる時に、活動できる人が協力する」PTA活動等への提案

〈田村氏〉

■意欲がわく研修内容の創造と発信について考えよう

○課題（会員の参加意識の向上や日程調整等について）

○まとめ

「連携」という言葉が一つのキーワードとして残っている。

震災後、特に「連携」の必要性がクローズアップされてきた。今回、地域と学校が連携する事例がアップされていた。地域と学校の連携をコーディネートするのがPTAであったりと、地域と家庭と学校が一体となった教育を実現する。その実現に向って様々な機関が連携していくことが、非常に大切になっていくと感じた。

＝後　半＝

後半は、大友靖子氏（伊達市社会教育委員）による講演会が行われた。『私の今は、PTA活動から始まった』という演題で、子どものためと思い、始めたPTA活動だったが、今振り返ってみるとやってよかったなと思っています。という自分の体験談にもとづいたお話は、以下の内容で大変興味深いものでした。

○憧れること、賛成してくれる仲間が大事であること等々。（そして、途中での朗読も大変印象的でした。）

○時代が変わっても、活動や課題はそんなに変わらない。

○みんなでやろうと、誘うことが、PTA活動への参加を促す。

○PTA活動の基本は、良い環境づくり。

○子どものための活動もいつかは自分たちのため。

最後に、実りあるPTA活動に向けて、応援の言葉があり、講演が、終了しました。

第三分科会【健全育成】

研究協議の視点

「親として地域の大人として実践できることを話し合おう。」

＝前　半＝

三名のパネリストから、視点をもとに活動状況等について発表があった。その後、会場からの質疑を受け、最後にコーディネーターからまとめのお話をいただき前半は終了した。

〈坂本氏〉

■各活動の紹介（心と心をつなぐ活動等）

「ふるさとを知る活動」を実践し、家庭・学校・子どもたち・地域・行政の5者の連携により子どもたちの健全育成を進める。

■家庭学習カードの活用により学習時間や環境が向上した。

○親と子のコミュニケーション

〈湯座氏〉

■目標を与え自ら考えて行動する力を養う。

○自立へ向けて（大人との交流。違う環境の子どもたちとの交流。他県の子どもたちとの交流）

○様々な体験をさせる。（場面に応じて考える力を養う体験を子どもたちにさせること）

■生活基本は、「挨拶」

○様々な体験（社会奉仕活動）

〈川口氏〉

■親の子離れが重要（「中学生」の時期が重要）

○「やってあげ過ぎ」の傾向（子どもを信じ成長を認め厳しさと

優しさのバランスを保ちながら小中高と関わりを変化させる）
○子への信頼（子どもたちを信じて一歩離れて見守る）
■親の背中（言葉だけでなく、実際にやってみせることの重要性）

パネリストの発表の後、意見交換があり、最後にコーディネーターよりまとめがあった。

意見交換

○親は、スポ少では大いに関わり、部活動では一歩下がって自主性を重んじるべきだ。
○学校・PTA・地域が一体となっている活動を今後、もっと推し進めるべきだ。

○まとめ

親として子どもの成長に応じたバランスの良い関わり方を心掛け、多くの経験機会を与え自立を促し、生活習慣を向上させ、規範意識を高める。

＝後　半＝

後半は、横山幸子氏（梁川ざっと昔の会会長）による講演会があった。

講演は、『育つ力と育てる心』という演題で講演が行われた。昔話の語り手として長らく活躍してきた横山さんのお話は「言葉」や「命」の大切さについてのお話だった。

○「言葉」は人格形成に大きく関わっている。良い言葉をかけて育った子とそうでない子の違いは歴然。子どもに寄り添って言葉をかけること。
○「命」の大切さを自分の言葉で子に伝えること。伝えるためには、聞いてもらおうとする心が大切。
○育てる心は聞いてあげることから始まる等々。

柔らかな語り口からのお話は、経験談と相まって大変参考になるお話でした。
「声は消えるが言葉は残る」

第四分科会【家庭と小学校教育】

研究協議の視点
「子どもの育ちを広い視野から見つめ考えよう。」

＝前　半＝

三名のパネリストから、視点をもとに活動状況等について発表があった。その後会場から質疑を受け前半は終了した。

〈横田氏〉

■家庭教育では生きていくために必要なライフスキルを、小学校では基礎的な「学力」「人と関わる力」「体力（耐力）」を身につけることを目標とし実践している。

Q　回覧板やゴミ出し等を子どもたちが担当しているとのことだが、その実践方法は？

A　学校から子どもたちに「ミッション」としてお願いした。その結果地域の人と子どもたちが顔を合わせる機会が増え、親も地域の方々と交流するチャンスが増えた。

〈岩間氏〉

■三者協働（家庭・学校・地域）の活動…より多くの目で見守るために学校から家庭に求めるもの
①基本的生活習慣の確立
②教育活動への積極的な参加
③家庭での学びの習慣　等々。

〈遠藤氏〉

■子どもを育む地域実践プロジェクト（警察、消防、各種団体代表が集まって立ち上げる）冊子作成、全戸へ配布各単Pではできないところを地域で補う。

＝後　半＝

後半は、西内みなみ氏（桜の聖母短期大学生活科学科教授）による講演会が行われた。

講演は、「小学生の保護者の役割と子どもの関わり～子どもたちの幸せな世界を創るために～」を演題に行われた。

（1）創造的想像力を育む（生きる力）
①家庭教育と小学校教育との関わり
②心豊かでたくましい子どもを育てる。
小学校との連携
（2）子どもの主体性を大事にする関わり方
①子どもに寄り添う。
②進歩を認め誉める。
③定義を与えない。
④「判決」を下さない。
⑤考え、判断する余地を残すこと。
（3）子どもに伝えたい性・いのちについて
「思春期は心の揺れも大きいとき」
①不安定な心の揺れを上手に受け止める。
②「大切にしてくれる大人がいる」と子どもが実感すること。

子どもは、家庭で家族と関わりながら、基本的な生活習慣を身につけ、「生きる力」や「豊かな人間性」を育んでいく。そして、大人が子どもに愛情深く関わっていくことで、子どもは自己肯定感を高め、学習や運動に自信をもってチャレンジし、心身ともに健やかにたくましく成長していく。そうした、保護者の役割と子どもの関わりを考えさせられた講演でした。

第五分科会【家庭と中学校教育】

研究協議の視点
「子どもの育ちを広い視野から見つめ考えよう。」

＝前　半＝

三名のパネリストから、視点をもとに活動状況等について発表があった。その後、会場からの質疑や感想を受けた。

〈末永氏〉

■「震災と原発事故が私たちに及ぼした影響」
①町の震災による状況
②原発の影響の凄まじさ
○外での運動活動の制限
○今後の課題
・協力し合う心を忘れない＝PTAの原点
感想　理解不可能の被害である。原発は大変なことと思います。

〈佐藤氏〉

■「ふるさとを愛し『生きる力』を育むPTA活動」
○各学校のPTCR（親子活動）
○学校のボランティア活動
○PTA講演会を開く活動をし、子どもたちに教える活動をしている。
・地域や学校も育ててくれます

〈熊谷氏〉

「ノーメディア・デーを通して」
○陸前高田市と子どもたちの現状
○被災時の状況と現状について。
大震災後、被災地を訪問することで、防災の大切さを教えることができた。
○ノーメディア・デーの再挑戦をすることによって。

＝後　半＝

後半は白石　豊氏（福島大学人間発達文化学類教授）による講演が行われた。演題は『「生きる力」を育てる学校をめざして』であり、今回は、東京オリンピック開催の決定の前の日だったため、話はここから始まった。

○タイムライン（時間の線）で夢や希望を想像させて、スポーツ選手や学生の未来を、自分で考え実行する力を身につける。
○就職超氷河期時代に生きる（大学生の話）
・近年にはリーマンショックによる新規採用枠の縮小。
・雇用のグローバル化。
・企業の求める能力に合致した日本の学生は少ない。
○「ゆとり教育」について
○福島大学附属中学校での取組み
・改革その１「ワーク・ライフ・バランス」
・改革の本丸〝授業を変えよう〟

最後に、先生が変われば学校も変わるという言葉が印象的でした。

○まとめ

保護者の役割と子どもの関わりについて、大変参考になる講演会でした。

晴れの表彰 おめでとうございます

一、文部科学省ＰＴＡ活動振興功労者表彰（二名）

・浪岡　真澄（県Ｐ連顧問）
・佐藤　辰夫（県Ｐ連会長）

二、文部科学大臣「優良ＰＴＡ」表彰（二団体）

・南相馬市立原町第三小学校
　父母と教師の会
・南会津町立荒海小学校
　父母と教師の会

三、日本ＰＴＡ全国協議会会長表彰

◇団　体（二団体）
・新地町立新地小学校
　父母と教師の会
・いわき市立久之浜第一小学校ＰＴＡ

◇個　人（四名）
・藤原　　聡（県Ｐ連副会長）
・村上　和行（県Ｐ連副会長）
・小竹　晴彦（県Ｐ連副会長）
・西　　道典（県Ｐ連副会長）

四、日本ＰＴＡ全国協議会特別表彰（十五名）

・遠藤　誠一、山縣　眞二、
遠藤　二郎、蛭田　優子、
秋山　智樹、渡部　岩男、
川島久美子、山岸　波、
穴澤　耕二、下重　秀俊、
薄　　宏次、齋藤　嘉則、
郡司　英夫、茅原　秀雄、
太田　信男

※一、四については、五年ごとの表彰となります。

五、東北ＰＴＡ連絡協議会会長表彰

◇団　体（九団体）

第六分科会【特別支援教育】

研究協議の視点

「子どもの育ちを広い視野からみつめとらえよう。」

＝前　半＝

三名のパネリストから、視点をもとに活動状況等について発表があった。その後、会場からの質疑や感想を受けた。

〈山田氏〉

■特別な配慮を必要とする子どもの理解（日頃の生徒の様子・交流活動・保護者間の交流等）
■まとめ
　発達障がいを抱えた生徒、その保護者への理解と他者理解の必要性等

〈角田氏〉

■特別な配慮を必要とする子どもの理解（通級指導を通して）
■学校・地域との連携について
■まとめ〈親の影響力について〉

〈佐川氏〉

■ＰＴＡでの取組について
○実践例〈学校やＰＴＡの取組〉
■子どもたちの環境をいかに整えるか
○学校、家庭、地域が自然な形でお互いに理解し活動できる環境を整えることが重要

○**質疑・意見**

（1）親の一生懸命な姿を見せることは大切と認識。
（2）親を含め地域との連携が重要。
（3）学校側も活動の中でもう少しオープンにしてほしい。

○**まとめ**

次の4点から
（1）学校自体の区別（差別）しない環境整備。
（2）地域との連携と相互理解の確立。
（3）親としての積極的な関わり。
（4）ＰＴＡとして理解と支援の強化が必要。

＝後　半＝

後半は内山登紀夫氏（福島大学人間発達文化学類教授）による講演会が行われた。「発達障害の理解と支援」という演題のもと、次のような内容の講演だった。

（1）支援を必要とする子どもたちの特性
（2）支援の基本方針
①子どもが理解し易い環境設定
②苦痛の少ない環境設定
③子どもにとって合わない環境なのに、特定の技法や薬物を用いる方法は適切ではない。
（3）様々な支援の形を通して目指すもの
①「苦手を無くす」こと
②将来の「全員就労」も目的
③個人の特性や提供される環境を考慮
（4）薬物療法中における災害の備え
①処方箋を余分に確保する。
②処方箋内容を、複数の場所に記録し保存しておく。等

以上の他に、避難所では精神的に不安定になることを考慮し、できるだけ普段通りの生活が送れるように本などの日常生活用品を持ち込むことも大切である。

といった発達障害の概要から支援のあり方等、大変参考になるお話でした。

日Ｐ研究大会 三重大会レポート

県連Ｐ副会長　小竹　晴彦

八月二十三日・二十四日に全国大会が三重県で行われ、私も参加して参りました。

前日伊勢市に入りましたが、今年は伊勢神宮の、二十年に一度の式年遷宮。猛暑の中、多くの観光客の方で賑わっていました。

さて、初日の二十三日は分科会。特別第一分科会「早寝早起き朝ごはんが子どもの将来を決める」のテーマの下、東北大学の川島隆太教授が講演されました。氏は「脳トレ」で世間に一躍知られた方、とはいっても、ありきたりの内容かなと、実はさほどの期待はしていませんでした。

ところが、これが大間違い。出だしからぐんぐん引き込まれてしまいました。実際のデータに基づいた実に説得力ある内容だったのです。紙面の関係で詳しくお伝えできないのが残念ですが、ほんの一端をご紹介します。

まず、睡眠について。人間は眠ってから、浅い睡眠（ＲＥＭ睡眠）と深い睡眠を何度か繰り返すのだそうですが、ＲＥＭ睡眠が脳の記憶にとってとても大事だとのこと。この時に、起きている間のことを復習するのだそうです。

そして朝ごはん。大人を調査したところ、子どもの時、毎日朝ごはんを食べていた五十％の人が第一志望の学校に進学していた。また、年収の高い人ほど朝ごはんをきちんと食べていたという調査報告もありました。私もきちんと朝ごはんを食べていたのですが、どうも例外のようで…。

とにかく説得力ある講演で、時間を過ぎても質問が飛び交うほどでした。

二日目が全体会。三つの「わ」、「輪」「話」「和」実現をメインテーマとした大会宣言が発表されました。

そして、川井郁子氏の美しいヴァイオリンの音色にうっとりしながらのひと時でした。

ちなみに、第一回の全国大会は三重県だそうで、今回が六十一回。さすがに伊勢神宮の地。すべてがここから始まったことを思い知らされ、私も真っ白な初心に返ることのできた素晴らしい大会でした。

・伊達市立大田小学校ＰＴＡ
・伊達市立掛田小学校
　父母と教師の会
・本宮市立本宮第二中学校ＰＴＡ
・郡山市立郡山第二中学校
　父母と教師の会
・須賀川市立小塩江小学校ＰＴＡ
・田村市立芦沢小学校ＰＴＡ
・会津若松市立一箕中学校
　父母と教師の会
・相馬市立中村第二中学校
　父母と教師の会
・相馬市立山上幼稚園・小学校
　父母と教師の会

◇個　人（八名）
・丹野　学（県Ｐ連前副会長）
・根本　眞（県Ｐ連前副会長）
・伊藤　典夫（県Ｐ連前理事）
・横山　充（県Ｐ連前理事）
・石　明生（県Ｐ連前理事）
・川崎理恵子（県Ｐ連元理事）
・穴澤　耕二（県Ｐ連前調査広報部長）
・茅原　秀雄（県Ｐ連前総務部長）

六、福島県ＰＴＡ連合会会長表彰

◇感謝状
・遠藤　誠一（前副会長）
　他三十名

◇団体表彰
・伊達市立松陽中学校ＰＴＡ
　他二十八団体

◇個人表彰
・福地　幸子（福島）
　他八十二名

※参考
福島県教育委員会社会教育関係功績顕著な団体
・福島市立蓬萊中学校父母教師の会
・二本松市立安達太良小学校父母教師の会
・須賀川市立仁井田小学校父母教師の会
・下郷町立旭田小学校父母教師の会
・南相馬市立大甕小学校父母教師の会

小中Ｐ懇談会に参加して

県Ｐ連母親代表理事　芦名　紀子

今回のテーマ「震災・原発事故による子どもたちの心のケアや現在のＰＴＡ活動について」小グループに分かれ話し合いが持たれました。

震災直後は、学校の体験学習が減少するなど、制限を受けていた行事も、徐々に戻りつつあるようです。しかし、原町地区では、郡連Ｐを行うにも、十二校中、三校しか集まらず事務局校が苦労をしているとのことでした。そして、除染活動が活発になることによって、交通量が増え、そのことによる交通事故の心配、また、震災後、子どもたちの携帯電話の普及率の増加等に伴うトラブルなど、二次災害にも、心を痛めていることがわかりました。

様々な地域の様々なＰＴＡ活動の話を聞くことは、対応の違いがあるということを、知るだけでもとても、有意義なものだったと思います。

話し合いの後、私たちのグループは福島第四小学校校長古川満里子先生から助言をいただきました。

行政、保護者、学校とも「子どもの幸せ」を願っている。お互いに認め合っていくことが大事である。また、安全を確認したら、一歩踏み出す勇気も必要である。不安を共有しながらも前進しなければならないという、力強いお言葉をいただきました。また、福島の子は、たくさんの支援をいただいているので、やってもらうことが当たり前で、感謝の気持ちを忘れてしまうのではないかと心配されていました。

放射線という、えたいのしれないものから子どもを守らなければならない不安は確かにありますが、親も正しい知識を身に付け、前に進んでいく姿を子どもにみせていかなければならないと思います。そして、まず親が感謝の気持ちを忘れずに日々過ごしていくことが、子どもたちの幸せにつながっていくのではないかと思います。

母親代表懇談会に参加して

県Ｐ連母親代表理事　大樂　治美

今年度の母親代表懇談会は「ケータイ・スマホを安全に利用するには～保護者としてどう対処すべきか」をテーマに福島県青少年県民会議「大人の応援講座」講師松本雅昭氏に講話いただきました。

まずは親として、ケータイ・スマホ・ネットにおける危険性と現状を知ることが大切だと話されました。ゲームサイトやプロフから個人情報が知られることで、様々な犯罪に巻き込まれる恐れがあること。現金を騙し取られる危険性もあること。ネットに誹謗中傷することで加害者になる可能性があること等事例を紹介しながらわかりやすく講話いただきました。なかでも一番衝撃を受けたことはネット依存により心身に悪影響を与えるおそれがあり、過度な熱中で死亡した例があることです。親として知識不足のまま子どもに買い与える危険性を痛感しました。

これらの対策については、
①　被害を最小限にするため親子のコミュニケーションが大事であること。
②　必要な理由をきちんと話し合い必ずフィルタリングを入れること。
③　利用にあたって、家庭内のルール作りが非常に重要であること。

であり、普段の心がけが非常に大切だと感じました。

午後からはグループごとにバズセッションを行い、講演内容の感想や情報交換等が行われました。

震災後は連絡用に、情報交換用に利用しているが、本来の用途で使えば便利である。利用することのマイナス要素やネット中毒についても教えるべきである。ケータイ以外にも、ウォークマン・ゲーム機でも通信が出来るので、保護者の管理が必要である等の意見がありました。今回の懇談会は、親として日々進化するモバイル・ネットについて定期的に学ぶ必要性と親子のコミュニケーションの重要性を改めて知る貴重な時間となりました。

安全互助会から

常日頃より、福島県ＰＴＡ安全互助会に対し、ご理解とご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

すでにご案内の通り、平成二十五年度から新コース（Ⅳ）を加え、四コースから選んで加入していただいています。

◎Ⅳコースについて

このことについては、十一月に再度、各学校・幼稚園にお知らせいたしました。

今年度は、Ⅳコースに百四十一校・園に加入いただきました。資料として新聞記事を付けましたが、親に対し、九千五百万円もの高額な賠償責任を果たすよう判決が下されるケースが出ています。

他の保険でも一億円補償が当たり前の時代となってきています。

◎転出入の報告をその都度お願いします。

今年度も、児童生徒の転出入の件数が多くなっています。

本制度は、会費を納入いただいた（五月末日）の転出入については、「福島県ＰＴＡ安全互助会加入人数の変更届」を本会宛に提出いただくことをお願いしております。

年度末に、本会と引受保険会社とで加入人数等の確認をし、本会が支払う保険金の調整をすることになるので、転出入の人数の確認が必要となるわけです。

本制度を維持していくためにも必要なことですので、お手数でも、「変更届」の提出は忘れずにお願いいたします。

なお、第三学期（一月）以降の転出入については報告の必要はありません。

※「変更届」の用紙は、「事務取扱概要」の40Ｐにありますので、コピーしてご使用ください。

ふるって応募ください

◇子ども災害事故防止習字・ポスター展

実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認いただき、多数のご応募をお待ちしております。

- **応募締切**　平成26年１月末日
- **作品送付先**　県ＰＴＡ連合会事務局

◇学校新聞、ＰＴＡ広報紙コンクール

各学校ＰＴＡでは、それぞれ特色ある新聞、広報紙を発行されていることと思います。ふるって応募くださいますようお願いいたします。

- **応募締切**　平成26年３月末日
- **送付先**
  福島民友新聞社事業局
  「県小中学校新聞・ＰＴＡ広報紙コンクール係」

年末年始の事故防止を

「光ります ルールとマナー 反射材」

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が実施されます。

●期　間
平成二十五年十二月十日から二十六年一月七日まで

●運動の基本
高齢者の交通事故防止

●運動の重点
（一）夕暮れ時と夜間の交通事故防止
（二）飲酒運転など悪質・危険な運転の根絶
（三）全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

編集後記

十二月二十一日から二十四日までの三泊四日の日程で、「水俣との交流事業」が実施されます。

県内各郡市Ｐ連から推薦された四十名の中学生が、水俣の生徒たちとの交流を通して、水俣市が目指している地域環境の保全の大切さ、人としての生き方、地域と風土と暮らしを体験できる「環境学習都市」水俣で研修をします。

ふるさと「ふくしま」でどう生きていくか、自分の住んでいる地域をどうしていくかを考えていくことにつながり、これからの「ふくしま」を担う子どもたちにとって貴重な体験になることが期待できます。（Ｔ・Ｈ）

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言！ 共栄火災

サイ吉
人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心のチカラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。

共栄火災海上保険株式会社　〒960-0231　福島県福島市飯坂町平野字三枚長 1-1　TEL.(024)554-3006　www.kyoeikasai.co.jp